こどもの発達を支える生徒指導に関する調査研究事業

室戸市は、「魅力ある学校づくり」に全教職員で取り組み、新たな不登校を０（ゼロ）にします。

- 子どもが、明日も行きたくなる学校づくりを目指します。
- 今やっていることを、生徒指導の4視点と「居場所づくり」「絆づくり」を意識しながら組織で取り組みます。
- 子どもたちの声（意識調査）を手がかりとして、教職員で子どもの声に耳を傾け、認知のズレがないか PDCA サイクルを回して「問い直し」していきます。
- 子どもが中学校に希望を持って進学できるよう、小中連携の充実を図ります。
- 全教職員は上の取組を理解し、「チーム学校」で協働していきます。

「魅力ある学校づくり」を進めていくための取組

児童生徒は、学校生活を過ごす中で、「楽しい」「うれしい」ことばかりではなく、「学習が分からない」「人間関係が不安」といった困難や課題等、様々な経験をします。また、環境的要因から、学校に行きづらい背景にある児童生徒もいます。様々な事情があっても、児童生徒一人一人が「明日も学校に行きたい」と思えるような魅力ある学校づくりを進めていくために、教職員が児童生徒にとって、安全・安心な場を提供する「居場所づくり」と、児童生徒が主体的に取り組み、互いに絆を深めていく「絆づくり」の２つの取組があります。

居場所づくり

児童生徒が安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場所を**「教職員が」**つくり出す。
安全安心な学校づくり



バランスが大切

絆づくり

主体的に取り組む活動を通して、**「児童生徒自らが」**絆を感じ取り、紡いでいく。教職員は場と機会の設定をする。
児童生徒の主体的な取組



「つくる」の「主語」が教職員なのか、児童生徒なのかが大きな違い

＊「居場所づくり」「絆づくり」はすべての子どもを対象にした「集団指導」の在り方を見直す視点です。

参考資料：国研　生徒指導リーフレット「絆づくり」と「居場所づくり」Leaf.2

子どもたちの声から取組を点検・見直す
～未然防止のためのPDCAサイクル～

子どもたちの声
すべての子どもたちに取組が届いているか、子どもたちの声（意識調査）を聴きます。（年間３回）

話し合う
「子どもたちの声」と先生たちの「見立て」がずれていないかを話し合う中で、取組の視点を再確認し、方向性をそろえます。

そろえる・繰り返す
より具体的な取組方法を学年団・学校で確認し、ベクトルをそろえて取り組んでいきます。この流れを学期ごとに繰り返して、集団指導の効果を高めていきます。



PDCAのはじまりは子どもの声

プレアンケートで自校の実態を把握
自校の子ども達のことを把握するために、児童生徒アンケートを実施し、その数値を「子どもの声」として捉え、それに基づいて、特に着目する項目を決め、取組を計画する。

「授業に主体的に取り組んでいる」「授業がよく分かる」と言い切れる子どもが２割しかいない。授業改善に着目して取組を考えよう！



よりよい学校にするために　子どもも教職員も
話し合う
（相手を知ろうとする）

＊日々の活動では
・よさや頑張りを見つける
・子どもの様子を教職員で共有
・生徒指導を意識した授業を行う

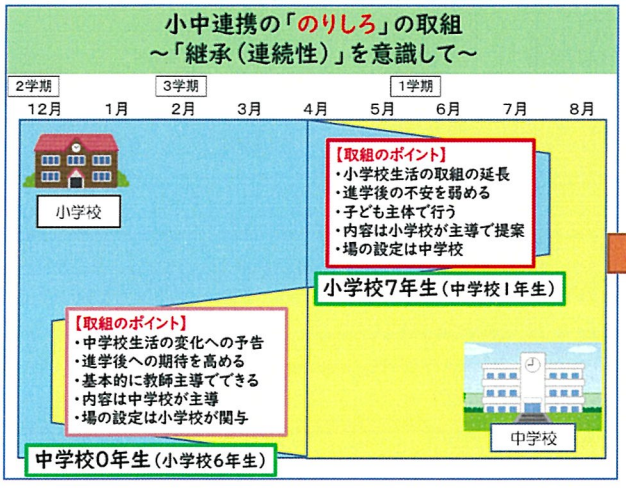
＊研究授業では
・チームで指導案検討
・生徒指導の視点でも検討

教科の往還をめざす

＊取組の検証改善では
「児童生徒アンケート」で「そう思う」と自信を持って答えている子どもの割合を見て、これまでの教職員の取組が子どもに届いているかの視点で効果検証。

中学校入学時に希望を持って進学するための小中「のりしろ」の取組

小学校を卒業して中学校へ進学すると、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化します。この変化をワクワクした気持ちで迎える子どもたちもいれば、どんな学校生活になるのか不安に感じる子どもたちもいます。中学校入学に対する不安な思いを軽減し、学校生活の変化を緩やかにするためには、中学校区での連携を充実させた「のりしろ」の取組が必要となります。



＜室戸中学校の取組＞



体育大会の取組を見える化
小学校でも掲示



小学6年生のアンケート結果を生かした
中学1年生の学校紹介をリモートで実施

生徒指導の4つの視点を生かした授業スタンダードを協議した教員研修・中学校区で共有



